

1 GIGA 端末をよりよく活用するために

GIGA 端末は、皆さんの学習に役立てるためのツールです。便利な道具ですが、気をつけることもあります。安心・安全・快適に活用するために、使い方を確認しておきましょう。

小学校での注意事項の例

① 使い方・使う場所

- 過度の衝撃や荷重で破損することがあります。大切に扱しましょう。
(落とさない、上に物を置かない、ふたの下に物をはさまない、画面を強く押さない)
- 持ち帰るときは、カバンやランドセルに丁寧に入れましょう。
- 故障につながるため、次の場所では使わないようにしましょう。
(食べ物や飲み物の近く、磁石の近く、湿気の多いところ)



困ったとき

- GIGA 端末が使えなくなったり、再起動しても元に戻らなくなったりしたときは、すぐに大人に知らせましょう。

② 健康・安全のために

- GIGA 端末を使うときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気をつけましょう。(画面と目を 30 センチ程度離す)
- ユーザ名(ユーザ ID) やパスワードは人に教えてはいけません。
- 他人の GIGA 端末を勝手に使ったり、使わせたり、他人のパスワードでログインしたりしてはいけません。



③ ルールを守る

カメラを使用するとき

- 人や、人の持ち物、人の作ったものには、肖像権、所有権、著作権があります。カメラで撮影するときは、必ず相手の許可をもらいましょう。
- 撮った写真や動画は、いたずらしたり、いやな気持ちにさせたりすることに使ってはいけません。



インターネットで学習するとき

- 学習に関係ないウェブサイトは閲覧しないようにしましょう。
- インターネットには安全のための制限がかけられていますが、あやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、大人に知らせましょう。
- インターネット上で発言や発信したことは、他人から見られる可能性があります。個人情報(名前、住所、電話番号、メールアドレス、顔写真など)は知らせてはいけません。
- 一度送信したものは取り消すことができません。受け取った相手はどう感じるか、よく考えてから送みましょう。
- インターネット上のデータは、肖像権や著作権があります。引用するときは出典を明示するなどのまわりを守り、コピーをする場合は使用許可の手続きをしましょう。



家庭で使うとき

- 使用するときの時間帯や場所などのルールを家の人と決めておきましょう。
- 長時間続けて使用すると目が悪くなるなど体調不良の原因になります。適度に休憩を取りましょう。安眠の妨げになるので、寝る時間の 30 分前には使わないようにしましょう。

2 情報社会を生き抜くために必要な資質・能力

これからの社会は、AI(Artificial Intelligence=人工知能)が身近なところで使われるなど、急速に変化していきます。情報化が加速的に進む「Society 5.0^{※1}時代」に向けて、情報モラル等に関する資質・能力を含め正しい情報活用能力を育むことが必要です。情報活用能力を身につけるためには、科学的な根拠に基づいて情報を正しく判断する「情報の科学的理解^{※2}」が欠かせません。

※1 サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会
※2 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善したりするための基礎的な理論や方法の理解

これからの世の中の急激な変化!

● Society 5.0 時代の到来

社会がとても速いスピードで変わり、人工知能(AI)、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術があらゆる産業や生活に取り入れられた「Society 5.0 時代」がやってきています。



● Internet of Things(IoT)の時代

今よりもあらゆるものがインターネットにつながる世の中になっていきます。



● 将来の予測が複雑で困難な時代

社会の変化とともに、これからさらに、将来の予測がとても難しい時代になっていきます。

「情報の科学的理解」によって育まれるチカラ

- 情報を正確に読み解きする対話する力
 - 科学的に思考・吟味(これは本当かな?これでもいいのかな?と見つめ直すこと)し活用する力
 - 価値を見つけ生み出す感性と力
 - 好奇心・探求力
- などを身につけるうえで、情報の科学的な理解が必要です。

● 変化する情報化社会に適応する GIGA スクール構想 ●

2019年度、文部科学省は全国の小学校・中学校・高校・特別支援学校等の校内LANを、これまでの100 Mbpsからその100倍の10 Gbps(10000Mbps)という超高速回線へと変更する予算を付け、学校の皆さんが快適に学ぶことができる環境を整えました。

- 教師主導の授業から、児童生徒中心の主体的な学びへ
- 子どもたち同士の対話を通した、個別最適かつ協同的な学びへ

このような構想を実現するため、先進国等諸外国では、約10年前からタブレット端末やスマートフォンを学習に必要な1人1台のツールとして用いてきました。日本では端末の整備が追い付かず、そのような教育改善が遅れていましたが、文部科学省により2020年度から3カ年計画で、すべての小中学生に1人1台のタブレット端末が整備されるようになりました(新型コロナウイルス感染症対策のため、家庭でオンライン授業が受けられるよう、2020年度に配備完了)。

GIGAスクール構想では、以下のような人材を育てることを目指しています。

- 変化が激しく予測困難な時代でも、自ら問題を発見できる人材
- みんなで知恵を出しあうことで、問題解決ができる人材
- たくましく生き抜く力を持つ人材

学校以外でも積極的に情報・ICTを活用し、情報化社会に適応する力を身につけていきましょう。